

福岡大学 医学会ニュース

No. 37

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

福岡大学医学会賞についての内規(案)

- 1 名 称
本賞は福岡大学医学会賞と称する。
- 2 目 的
福岡大学医学部、病院および筑紫病院の研究活動を促進することを目的とする。
- 3 対 象
対象とする論文は前年度の4月から3月に発表されたものとする。
論文の筆頭著者は本学会会員で、論文発表時に年齢が40歳未満の者とする。
- 4 選考方法
(9月初めに開かれる福岡大学医学会評議員会で詳細を決定し、10月中旬までに論文を提出していただく予定です。)
- 5 副 賞
金賞は10万円、銀賞は5万円とする。

『福岡大学医学会賞』新設

本年度の医学士評議員会で、わが医学部・病院には既に医学紀要優秀論文賞の制度はあるものの、若い研究者へさなる刺激となり得るものはないかという提言がなされ、池原征夫医学部長のご指示で、できあがったのが左に掲げる医学会賞の制度です。わが医学部・病院では他の医学部に比較して教育・診療の負担がより重くかかっています。必ずや世界に誇る研究がなされていくはずですが、この賞を受賞された研究者は、つぎなる関門への挑戦にあたって、履歴書の賞罰欄に「福岡大学医学会賞受賞」と記入して頂けるはずだと存じております。国内・外で優秀な論文を発表された若い研究者のご応募をお待ちしております。

(庶務幹事 金岡 毅)

第二十一回総会および第三十九回例会(報告)

日 時 平成一〇年七月二十二日(水)
午後五時から

場 所 福岡大学医学部臨床大講堂

内 容

I、第二十一回総会

1. 議 事

報告事項

役員改選

平成九年度会計報告および平成一〇年度予算(案)

4. 「福岡大学医学会賞」新設について

その他

II、第三十九回例会

1. 座 長 菊池昌弘 教授(病理学第二)

「悪性リンパ腫の治療」

講演者 田村和夫 教授(内科学第二)

2. 座 長 有吉朝美 教授(泌尿器科学)

「悪性黒色腫治療の現況と将来の展望」

講演者 中山樹一郎 教授(皮膚科学)

二十五年後の心残り

元医学部長 松岡雄治



最終講義での松岡雄治・前生化学第一教授

二十五年間存分に働いたと思いましたが、切りのいいところで辞めさせてもらいました。辞めるにあたって福岡大学医学部・病院のことや気になることが全く無い訳ではありません。むしろ気になることがたくさんあります。その中でも、私が最も気になるのは、医学部の教育です。医学部の教育は、生化学担当の私に全く手が出ないほど難しい問題です。この難しい問題を解いて入学し、かつM1で化学の勉強をすましてきた学生がM2の生化学の講義を受けるころには、恐らく中学のときに習った筈の化学の最も基本的な知識すら理解していません。私は教育心理学など習ったこともありませんが、「試験をパスするために学習したことは、それをパスした途端にその殆どを忘却する」という公理が教育心理学にあるに違いないという気がします。要するに今のシステムでは学期試験をパスするためだけの勉強を強いっているのではないかと心配です。

「それでは今のシステムに代わるどんなシステムが考えられるのか、考えた方が良いのか、第一カリキュラムを今のスタイルに大改正したのはお前が学部長のときの作業ではないか」といわれそう、全くその通りなのですが、福岡大学の現実に囚われ、福大でできることを考えていると、どうしても今のシステムから抜け出せないというこの見本のよ

うな気がして、「心残り」になっている訳です。具体的にどんなシステムが考えられるのかをここで提案することはできませんし、するつもりもありませんが、この壁を打破するためには福大医学部教育B I G B A N Gとでもいって、大きな変革が必要だと思います。

そのための考えられる方策を全く無責任に以下列記します。

(1) 教育に今以上に格段に手をかけることを覚悟すること。

(2) 主任教授がその気になり、率先して教育の現場で泥まみれになること。

(3) そのためには主任教授に、権威主義と無縁な若くて活きのいい人材を、できれば外部からつれてくること。

(4) 教員の目線の高さをでさまで下げる。

こんなことをいっても所詮は絵に描いた餅ではないかといわれそうですが、福大医学部が何時かはこのB I G B A N Gにぶつからざるを得ないのも確かだと思います。

もう五、六年も前のことですが、フレッシュマンキャンプで久住登山をしたあと、新入生の副主担任をお願いしていた当時新任の教授が「これだけしっかりした学生が何故M5のB S Lに来るときあんまり活気のない学生になってしまっているのか、私たちは何か基本的に間違ったことをしているのではないか?」という感想を述べられたのが強烈に印象に残っています。この感覚こそが変革への原動力ではないか、この感覚で福大医学部の教育システムをもう一度皆さんに見直して頂きたいというのが私の切なる願いです。辞めた者の気楽さから勝手なことを言わしてもらいました。

長い間
ありがとうございました

(平成九年九月一日)

一〇年三月三十一日退職分)

松岡 雄治 教授(生化学第一)

選任定年(平成一〇年三月三十一日付)

利谷 昭治 教授(皮膚科学)

定 年(平成一〇年三月三十一日付)

稲益 建夫 助教授(公衆衛生学)

中村学園大学へ

(平成一〇年三月三十一日付)

木下 昭生 講師(内科第二)

明野中央病院へ

(平成九年九月三十日付)

秀島 輝 講師(外科第二)

米国へ(平成一〇年三月三十一日付)

助廣 俊吾 講師(心臓血管外科)

健和会大手町病院へ

(平成九年十二月三十一日付)

城戸 正喜 講師(筑紫病院整形外科)

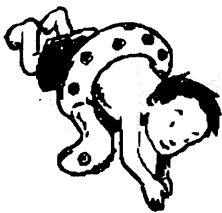
開業のため(平成一〇年三月三十一日付)

吉永 真也 講師(筑紫病院脳神経外科)

開業のため(平成一〇年三月三十一日付)

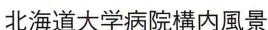


利谷昭治・前皮膚科学教授 最終講義



外科学第一教授 池田靖洋

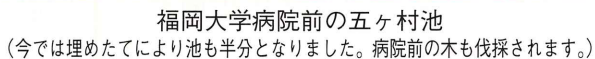
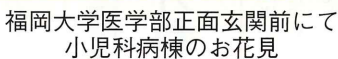
昨年十一月三日の九大第一外科開講記念講演会で、北



大第一外科の藤堂（省教授）（九大昭和四十七年卒）が特別講演の中で北大の美しい自然を紹介したカラー 슬라이ドが目を引いた。早速お願いして、後日コピーしていただき、それを左記に使用させて頂いた。歴史ある、広大な敷地と自然に恵まれた北大の真似は出来ないが、写真のように、中心静脈栄養の点滴セットを下げて、車イスで散策ができるような、また天気の良い日には、病室から出られる患者さんが、病院長新春懇談会で九大の仁保喜之病院長が新病棟建設（三月に鉄入れ）に付随して述べた「緑になるべく損なわないように新しい病院をつくる」ということです。病院の正門を入った所に、ミレスという人が制作した「神の手」という彫刻が建つ庭園がありますが、あの庭園も残すことにしています。

合格者の研修先は次のとおり。(福大病院は科名のみ)

		受験者	合格者	合格率
新	卒	94名	83名	88.3%
既	卒	26名	12名	46.2%
合	計	120名	95名	79.2%



①Epithelial Tumors of the Thymus
②Plenun press

安部 泰弘	内科第二	相良 仁	眼科	諸隈 中	麻醉科
石津 昌直	内科第一	佐藤 慶一	外科第二	安田由紀子	外科第一
井上 展聡	内科第二	重松 研二	麻醉科	山川 ゆき	横浜市立大学病院
今村 慎吾	内科第一	新里 健暁	長崎大内科第二	山口 寛	慶應義塾大耳鼻咽喉科
上野 厚子	小児科	諏訪 洋志	京都大外科第一	山崎 広樹	東京健生病院
江島 晃史	筑紫病院整形外科	高橋 聡	皮膚科	山里 政智	麻醉科
衛藤 聡	内科第二	滝 文孝	聖霊病院	余 玖卓	整形外科
大谷 圭介	筑紫病院内科	竹田 治彦	愛媛大整形外科	吉村 和子	小児科
大野 裕美	慶應義塾大麻醉科	立神江利香	神経内科・健康管理科	吉村 力	内科第一
岡部 敏彦	東京健生病院内科	田中哲一郎	形成外科	四維 浩恵	麻醉科
岡本 和子	大分医大産婦人科	田中 仁	救命救急センター	和田 哲	筑紫病院外科
小川 達雄	浜松医大内科第二	鄭 光弘	愛媛大整形外科	和田 正文	熊本大内科第一
角田 修	内科第二	富田 理香	大阪厚生年金病院	足立知大郎	泌尿器科
柏木 慎也	北里大形成外科	鳥居 幸生	京都大病態栄養部	大西 広一	脳神経外科
川浪 大治	虎の門病院内科	鳥巢 弘道	産婦人科	大橋 能理	名古屋大内科第二
北島 研	内科第二	西澤 新也	内科第一	小山 尚志	神経内科・健康管理科
北原 潤一	精神科	二宮 一郎	九州大内科第一	林 元治	産婦人科
絹脇 裕子	熊本大麻醉科	野尻 剛志	産婦人科	原 康二	整形外科
木下竜太郎	小児科	橋本 竜哉	第二外科	畑中 俊幸	九州大整形外科
木原 功博	神経内科・健康管理科	早志 友里	救命救急センター	村上 克己	未定
倉持 均	外科第一	平井 伸幸	整形外科	白濱 重敏	内科第一
黒田 純子	外科第一	平野 憲二	筑紫病院外科	宮原 大輔	産婦人科
桑波田 聡	鹿児島大内科第一	平野 幹子	放射線科	福岡 勉	耳鼻咽喉科
下司 陽子	高知医大精神神経科	松本 浩一	熊本大内科第一	武井 雅典	筑紫病院外科
小池 映子	久留米大小児科	松本 松昱	神経内科・健康管理科	濱田 賢治	整形外科
小泉 幸司	愛媛大産婦人科	松本 博	熊本日赤病院	藤山 洋一	慶應義塾大内科
小松 次郎	愛媛大内科第二	丸山 英和	都立大久保病院内科	森下雄一郎	整形外科
小松原ともゑ	九州大眼科	三島 慎也	北海道大第二内科	浅原 洋資	救命救急センター
後藤 麻木	産婦人科	溝口 悦子	北海道大第二内科	池田 久典	救命救急センター
堺 浩太郎	外科第一	六倉 和生	神経内科・健康管理科	今井 美華	眼科
境野 昌範	久留米大整形外科	森 憲	内科第二	光藤 利通	放射線科
			筑紫病院消化器科		